

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3891000048
法人名	株式会社 新風会
事業所名	グループホーム秦皇
所在地	伊予市中山町中山丑523番1
自己評価作成日	平成 25年 7月 23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載
----------	------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 25 年 8月 22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホーム内を清潔に保つと共に季節感を感じて頂くため花等を飾るようにしている。</li> <li>・職員は、利用者の方の要望に耳を傾けると共に日々観察をし状態に合った支援をするようにしている。</li> </ul>
---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所裏の栗畑には、収穫間近の実が敷地内に垂れ下がっており、利用者は栗の成長と食べることを楽しみにしている。利用者は日常的に自然を肌で感じながら、穏やかに過ごすことができる。職員は管理者と話しやすく信頼関係が築かれている。職員は利用者一人ひとりの思いを大切にしながら利用者本位のケアを行っており、利用者が楽しく笑顔で過ごすことができるよう支援している。</p>
-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

#### 【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム秦皇

(ユニット名) ほたる棟

記入者(管理者)

氏名 岡田 絹子

評価完了日 平成 25 年 7 月 31 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) ホーム内の理念を作りホームに掲示している。理念の共有は出来ている。しかし、職員の異動もあり全スタッフが理念を理解しているとはいえない。地域密着型サービスの意義の理念を組み入れているが実践にいたっていない。</p> <p>(外部評価) 法人理念をもとに、「お一人おひとりが自由に安心して暮らせるように、地域の方の力を借り共にこの地で仲良く生活できるように」という事業所独自の理念を、職員全員で話し合い、分かりやすく作成している。また、職員個人の目標を立て、個人のロッカーに貼り、出勤時に見て意識できるように取り組んでいる。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 中学生の訪問等受け入れ、運営推進会議の実施、お祭りなどのみこし、おいのこさん等の訪問受け入れ、近所への買い物、散歩等に行くようにしている。年一回の家族会に地域の方の参加も募り交流を深める努力をしている。</p> <p>(外部評価) 自治会に加入し、地域住民に事業所便りを配布して行事開催などを周知している。自治会の班長から地域の花見や盆踊りなどの誘いがあり、利用者と一緒に参加して地域住民と交流をしている。中学生の体験学習の受け入れをするなど、地域との繋がりや交流を深めることを前向きに考えている。</p>	事業所として地域とのつながりを持つように努めているが、日常的な交流に至っていない。今後、更に継続して地域との関係づくりに努め、事業所自体が地域の一員となれるような取組みを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 不十分ではあるが運営推進会議で認知症の人の理解や支援の方法を話し合い、また学生の総合学習の受け入れをしている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 行事等サービス取り組み状況を伝え、消防署避難訓練等の参加を踏まえた話し合いをしている。	会議では幅広い意見交換ができるよう、地域から多様な立場の参加者を得て開催されることが望ましい。議題を工夫し地域住民の参加を得ることができるような取組みを期待したい。
			(外部評価) 運営推進会議は利用者、自治会の区長や班長、市担当者などの参加を得て開催している。会議では、事業所の状況や課題等を報告し、意見交換をしている。管理者は、会議への参加の呼びかけは行っているが、参加者の固定化が見受けられる。今後、サービスの向上に繋がる運営推進会議の開催を検討している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議、地域ケア会議に参加し情報交換を行っている。	
			(外部評価) 市担当者が運営推進会議に参加しており、事業所の報告や意見交換等をしている。運営についても気軽に報告や相談することができる良好な関係を築いている。また、管理者は市の地域ケア会議に参加しており、連携を深めている。市が開催する研修等にも積極的に参加している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 研修の参加、ケアカンファレンス、業務カンファレンス時に話し合いを行い身体拘束をしないケアを職員に周知し実践している。	
			(外部評価) 事業所全体で身体拘束をしないケアに取り組んでおり、身体拘束に繋がる可能性のある行為は、その都度職員同士で話し合い確認している。言葉での拘束についても、利用者の人格を損なうことがないよう職員全員で意識しながら適切な対応をするよう心がけている。外部研修で習得した内容は職員全員で勉強会を行い、ケアに活かせるよう努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 研修の参加、研修の結果をホームで話し合い虐待防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 事業所内で学ぶ機会を持っており、関係者と必要性を話し合い、また、それらを活用できるよう支援している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 利用者家族の不安がないよう十分に説明をするようにしている。また、疑問等を持たれた場合は、随時対応し理解して頂けるよう努めている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 外部の方へ意見を表せる機械はあまり持っていない。利用者の意見は日々の生活の中で会話から気持ちを引き出し、その方に良い環境が作れるよう努力している。家族の意見は、家族の来訪時に聞いている。また、現状報告している。	
			(外部評価) 家族の訪問時に職員が利用者の状況を報告し、意見や要望を聞くよう努めている。家族からの意見は少ないが、細やかなことでも対応できるよう心がけており、信頼関係が築けるよう情報交換をしている。利用者からは日々の会話の中で意見を聞くように努めている。出された意見や要望は職員全員で話し合い、運営に反映できるよう努めている。	

自己 評価	外部 評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 日々の勤務時間を含め職員の意見に耳を傾け反映させている。一ヶ月に一回管理者会議の開催、カンファレンスを月一回行っている。	
			(外部評価) 月1回の業務カンファレンスで、職員は意見や要望を伝えることができる。また、管理者は日々の業務の中で気づいたことは、その都度職員と話し合いを行っている。管理者は職員と信頼関係が築かれており、出された意見等は可能な限り反映できるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 職員個々の努力等勤務状況を把握するようにしている。しかし、職場環境の整備に努力が必要と思われ、特に給与水準に努力が必要である。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 事業所内で業務カンファレンス時職員が担当をして勉強会を行っている。外部研修を受けた職員からその内容の報告の発表を行っている。働きながらのトレーニングは出来ていない。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 同業者と同じ研修に参加したり介護をもって交流に取り組んでいる。	
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 本人の過去現在希望不安等を聞き、理解しているようにしている。内的感情にどこまで迫れるか傾聴している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 家族の方の要望、不安等は電話、訪問時にお話しを聞くようにしている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 初期の段階で本人家族と話し合い、どのような支援が良いか考え対応している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 本人に任せきりにならないよう出来る事はして頂く様関係を築けるようにしている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族の方には、面会時電話等で近況報告し本人を支えていくようにしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 馴染みの人や場所があまりないが、今までに行ったことがあるところへ希望する場合は同行訪問している。	
			(外部評価) これまで行き来のあった友人の訪問ができるよう支援している。ドライブを兼ねて自宅や馴染みの場所に行ったり、今まで利用していた美容室に家族の協力を得て行くなど、馴染みの関係を継続できるよう支援している。利用者同士が顔見知りであったりして、入居してもこれまでの交流が継続できることを楽しみにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士の関係は把握している。関わり方の不十分な方には職員が間に入り支援している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 継続的な関わりを必要とする利用者家族の方は、現在おられない。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 本人の意向は会話の中にあり暮らしの希望、意向の把握に努めている。	
			(外部評価) 利用者一人ひとりに向き合いながら、日々の会話から思いや意向を把握するように努めている。把握が困難な利用者には、表情や動作から思いや希望を汲み取り、把握するよう努めている。入浴時など利用者と職員が1対1となる場合に、利用者の思いを聞くことが多い。一人ひとりを大切に、思いや意向に沿ったサービス提供ができるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居時の事前調査、アセスメントで情報を得ている。また、家族からの情報等で経過の把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 一人々の過ごし方、身体状況は把握できている。心の有する力は把握に至っていない。	



自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価) 月一回全員でケアカンファレンスを行い、本人・家族の希望等を話し合い、利用者本意の計画になるよう努力している。また、利用者が日々の生活の中で変化があった時は、その都度話し合っ計画に反映させている。</p> <p>(外部評価) 利用者や家族の意向を聞き、担当者を中心に話し合い、意見を反映して介護計画を作成している。作成した介護計画は家族に説明し同意を得ている。定期的にモニタリングを行い、介護計画がより良いものになるよう努めている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価) 日々の生活を書いた個別介護記録をし、月一回ケアカンファレンスをする。三ヶ月に一回ケアプランの見直しをしている。情報を共有し現状にあったプランを作成し実践に活かしている。</p>	
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 家族の同意の元に受診等の支援を行っている。その時のニーズに対応し変化に応じたサービスが出来ている。</p>	
29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 地域資源は把握している。しかし、実際に地域資源と協働ということがかなり少ない。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 主治医が月2回以上の往診、緊急時の対応もでき ようになっている。本人家族の了解の元専門医 の受診も支援している。	
			(外部評価) 利用者や家族の同意を得て、ほとんどの利用 者が協力医をかかりつけ医としている。月2回 協力医の往診で利用者の健康管理をしており、 急変時などにも対応ができる体制が整ってい る。専門医の受診は職員が受診介助をしてお り、利用者が安心して継続受診ができるよう 支援している。受診時には、利用者の状況を 家族に報告して、情報を共有している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情 報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 週一回看護師の訪問があり相談し適切な対 応が出来る。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 緊急時だけでなく、日頃から連携をとり情 報交換、相談をしている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 重度化の看取りに対しては、家族の意思を 尊重し家族職員医師が話し合いをしてい る。特に看取りに関しては、家族の全 面的な協力が必要であると思われ話し合 いをしている。	
			(外部評価) 入所時に、重度化や終末期に事業所として できないことを利用者や家族に説明し、意 向を聞いている。利用者の状態に応じて、 医師、家族、職員がその都度話し合い意 向を確認している。利用者や家族の思 いを受け止めながら、納得のいく最期を 迎えられるよう支援している。急変時に 備え、管理者は事業所に待機して対応 できるよう体制を整えている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 救命講習を受け急変時の対応に備えている。年一回の講習を受けている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 災害時の対応は話し合っている。火災時大規模災害の実施訓練を実施している。地域の方の参加はない。近所の方への応援は要請している。食糧等の備蓄も取り組んでいる。	
			(外部評価) 年2回、避難訓練を消防署の協力を得て実施している。夜間を想定した火災訓練や震災訓練では、利用者全員が避難するのに時間がかかり過ぎており、災害発生時には現実的に利用者が安全に避難することが難しいことを認識している。日頃から避難場所や防災備品の使用方法を確認するなど職員全員で話し合い、防災意識を高めるよう努めている。震災に備えタンスが倒れないよう固定したり、備蓄品を用意したりするなど、利用者の安心、安全な生活を守るために災害対策に取り組んでいる。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 言葉かけや対応に注意している。大声で話さない。本人が失敗された時等さりげなく対応するなど心がけている。	
			(外部評価) 利用者の尊厳を損なうことのないよう、不快感や羞恥心に配慮した声かけや大声を出さないよう注意した対応を心がけている。職員同士で気づいたことはその都度注意し合っている。職員は利用者一人ひとりの人格を尊重して支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 本人に着替えの服を選んで頂いたり、飲み物も決めてもらったりしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 入浴等職員の立場を優先する事がある。しかし、大半は何時に何をすることはせず、その方の今を大事に支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 散髪は、2～3ヶ月に一回美容師来所で対応している。服など選ぶ事が出来ない方もいらっしゃるのその時は、職員が考えてその方にあつたおしゃれをしている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食事の下ごしらえ、準備、片付け等をして頂いている。味付けも全般的に「おいしい」と言ってもらえる味付けになるようにしている。	
			(外部評価) 献立は法人で一括して立て、職員が調理している。行事の時は、利用者のリクエストを聞き、好みのメニューを提供しており、利用者に喜ばれている。中庭で自然を感じながら食事やおやつを食べるなど、利用者がゆっくり楽しめる工夫をしている。利用者は食事の準備や片付けなど、できることを職員と一緒に手伝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 水分量・食事量のチェックをしている。それを見て不足の時は意識的に声かけをし水分摂取を促している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 一人々口腔ケアはできている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 時間で行かれている方は、時間を見て声かけ誘導している。意思表示が出来ない方は、その方の様子を観て誘導している。	
			(外部評価) 排泄チェック表を用いて、利用者一人ひとりのリズムやタイミングを把握するよう努めている。声かけやトイレ誘導は、利用者のプライドや周囲の利用者に配慮をしながら支援している。トイレは車いすでも十分に入れるよう広く、立ち上がり動作がしやすいよう適切な手すりを取り付けられ、安全を確保している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 水分摂取チェック表等を利用し定期的な排泄ができるようにしている。時には薬（下剤）で対応している。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 個々の希望に応じた入浴ができるようにしている。清潔を保つ為日は決めず、入浴して頂いている。	
			(外部評価) 利用者の希望に応じて、毎日入浴できるよう工夫している。入浴の苦手な利用者には無理強いしないよう声かけやタイミングを工夫し、心地よい入浴ができるよう支援している。利用者の状態に合わせて、2人体制で入浴介助をするなど、安全に入浴できるよう配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) なるべく昼からは休息して頂けるような時間を作っている。安心して気持ちよく休まれるよう見守り見回りをし空調等を整えている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬情報をファイルにして職員が用法・副作用を理解できるようにしている。その後の状態も記録にし、様子観察できるようにしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) その人の役割り、楽しみごとの支援をしている。例えば、紙で折る箱作り、ペーパー折り、紙ちぎりをしている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 日常的な外出支援は出来ていない。デッキやホームの周り等には出て行ける。普段いけないところには家族の協力が出かけられている。	
			(外部評価) 日常的に利用者は中庭のデッキに出て、外気浴を楽しんだり運動をしたりして、自然を肌で感じリラックスできるように努めている。近くのコンビニに買い物に行ったり、畑でトマト、なす、ピーマンなどの野菜を作るなど、外出できるよう支援している。また、利用者の希望に応じて、家族の協力を得て美容室に行くなど外出することもでき、家族とふれあう外出支援を心がけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 本人がお金を持っていたい意思のある方は所持しておられる。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話はいつでもかけたい時にかけるようにしている。手紙は、やり取りまでには行かず受け取った手紙をお渡ししているので返事は書く事ができていない。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 共用の空間は、季節の花等を飾り居心地良く過ごせるよう工夫している。光は遮光カーテンで調整している。室温は空調にて行っている。	
			(外部評価) 共用空間には窓から自然な光が差し込み、ソファや畳スペースで利用者は自由にくつろぐことができる。リビングや廊下の空調など環境整備が行き届いており、利用者が居心地よく安全に安心して過ごすことができる空間づくりをしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 自分の座るところを決めている。安心して過ごせる場所を決めている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 写真等を飾ったり使い慣れた毛布、タオルケット等を使用して頂き、本人が居心地良く過ごせるようにしている。	
			(外部評価) 居室はベッド、タンス、洗面台が備え付けられている。居室には家族の写真を飾ったり、使い慣れた物を持ち込むことができ、利用者が居心地よく過ごせるよう配慮している。居室の窓からは周りの山々を見渡すことができ、四季を感じながら落ち着いた雰囲気となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) ベッドで寝る習慣がついていない方は、安全のために床にマットを敷いて寝られている。	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3891000048
法人名	株式会社 新風会
事業所名	グループホーム秦皇
所在地	愛媛県伊予市中山町丑531番1
自己評価作成日	平成 25年 7月 23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載
----------	------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 25 年 8月 22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・豊かな自然に囲まれ季節感を感じながら、穏やかに暮らして頂いています。</li> <li>・一人ひとりが、自由に楽しく、入居者、職員等気持ちの良い挨拶で朝が始まり、みんな仲良く笑顔で生活しています。</li> <li>・リハビリ体操、口腔体操、頭の体操等で身体能力維持に励んでいます。</li> </ul>
--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所裏の栗畑には、収穫間近の実が敷地内に垂れ下がっており、利用者は栗の成長と食べることを楽しみにしている。利用者は日常的に自然を肌で感じながら、穏やかに過ごすことができる。職員は管理者と話しやすく信頼関係が築かれている。職員は利用者一人ひとりの思いを大切にしながら利用者本位のケアを行っており、利用者が楽しく笑顔で過ごすことができるよう支援している。</p>
-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		



(別表第1の2)

## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

#### 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

#### ※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム秦皇

(ユニット名) くり棟

記入者(管理者)  
氏名 岡田 絹子・田上 英子

評価完了日 平成 25 年 7 月 31 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 事業所内ホーム内の理念があり掲示している。全職員、理念の共有できていはるが、全職員と一緒に振り返る機会は少ない。職員で話し合う機会を作り少しずつ取り組んで行きたい。	
			(外部評価) 法人理念をもとに、「お一人おひとりが自由に安心して暮らせるように、地域の方の力を借り共にこの地で仲良く生活できるように」という事業所独自の理念を、職員全員で話し合い、分かりやすく作成している。また、職員個人の目標を立て、個人のロッカーに貼り、出勤時に見て意識できるように取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 小学生・中学生の訪問受け入れ、運営推進会議の実施、祭りのみこし、おいのこさんの受け入れをしている。近所への買い物・散歩等にも行っている。	
			(外部評価) 自治会に加入し、地域住民に事業所便りを配布して行事開催などを周知している。自治会の班長から地域の花見や盆踊りなどの誘いがあり、利用者と一緒に参加して地域住民と交流をしている。中学生の体験学習の受け入れをするなど、地域との繋がりや交流を深めることを前向きに考えている。	事業所として地域とのつながりを持つように努めているが、日常的な交流に至っていない。今後、更に継続して地域との関係づくりに努め、事業所自体が地域の一員となるような取組みを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 2ヶ月に一回の運営推進会議に地域の方に参加して頂き認知症についての話し合いをしたり、学生の総合学習の受け入れを行う事で地域の人々の理解や支援を少しずつ行って行きたい。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 2ヶ月に一回会議を開催し意見交換を行っている。参加者の意見を参考にサービス向上に活かせるよう取り組んでいる。また、行事等のサービスの取り組み状況報告をし、地域の方から地域の行事予定を教えてくださいしてサービス向上に努めている。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議は利用者、自治会の区長や班長、市担当者などの参加を得て開催している。会議では、事業所の状況や課題等を報告し、意見交換をしている。管理者は、会議への参加の呼びかけは行っているが、参加者の固定化が見受けられる。今後、サービスの向上に繋がる運営推進会議の開催を検討している。</p>	<p>会議では幅広い意見交換ができるよう、地域から多様な立場の参加者を得て開催されることが望ましい。議題を工夫し地域住民の参加を得ることができるような取組みを期待したい。</p>
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 運営推進会議、ケア会議等に参加したり電話等で情報交換を行っている。</p> <p>(外部評価) 市担当者が運営推進会議に参加しており、事業所の報告や意見交換等をしている。運営についても気軽に報告や相談することができる良好な関係を築いている。また、管理者は市の地域ケア会議に参加しており、連携を深めている。市が開催する研修等にも積極的に参加している。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 研修の参加またケアカンファレンス、業務カンファレンス時に話し合い、身体拘束をしないケアを職員全員が心がけている。</p> <p>(外部評価) 事業所全体で身体拘束をしないケアに取り組んでおり、身体拘束に繋がる可能性のある行為は、その都度職員同士で話し合い確認している。言葉での拘束についても、利用者の人格を損なうことがないよう職員全員で意識しながら適切な対応をするよう心がけている。外部研修で習得した内容は職員全員で勉強会を行い、ケアに活かせるよう努めている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 研修の参加、ホームでの話し合いの場を設け虐待防止に努めている。事業所内で学ぶ機会を持っており重要性を関係者と話し合っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 事業所内で学ぶ機会を持っており、必要性を関係者と話し合っている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 利用者、家族が不安がないよう十分に説明をするようにしている。疑問を持たれた時は、その都度対応し理解して頂けるようにしている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 外部の方へ意見を表せる機会はあまり持っていない。しかし、利用者の意見は日々の生活の中での会話から気持ちを引き出しよりよい関係が作れるよう努力している。ご家族の意見は、年一回開催している会の中で改めて話を聞かせて頂く時間を作っている。また、面会時随時間かせて頂き運営に反映させている。	
			(外部評価) 家族の訪問時に職員が利用者の状況を報告し、意見や要望を聞くよう努めている。家族からの意見は少ないが、細やかなことでも対応できるよう心がけており、信頼関係が築けるよう情報交換をしている。利用者からは日々の会話の中で意見を聞くように努めている。出された意見や要望は職員全員で話し合い、運営に反映できるよう努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 月一回管理者会議、業務カンファレンス、ケアカンファレンスを開催している。日々の勤務時を含め常に職員の意見提案を聞き反映させる努力をしている。	
			(外部評価) 月1回の業務カンファレンスで、職員は意見や要望を伝えることができる。また、管理者は日々の業務の中で気づいたことは、その都度職員と話し合いを行っている。管理者は職員と信頼関係が築かれており、出された意見等は可能な限り反映できるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 職員個々の努力、状況を把握しているようにしていると思われるが、更なる職場環境条件の整備に努力が必要と思われる。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 当事業所では、毎月勉強会を実施している。議題については年間計画を立て担当を決めて行っている。年2回社内研修があり社外への研修も促している。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 管理者会議にて他事業所との意見交換を行っている。また、行事にて交流も図っている。見学等の受け入れを行ったり、研修に参加する事で同業者との交流、情報交換する機会を作っている。	
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入居前の事前調査で本人の希望不安を聞くと共にその方の過去、現在を理解して不安なく過ごせるよう信頼関係を築く努力をしている。また、入居後、職員への周知のためケアカンファレンス等で報告し情報を共有している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 事前調査及び施設見学時で困っている事、不安な事、希望等を聞く機会を作り信頼関係作りに努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人家族との話し合いの中で、その時必要としている支援を見極めようと努力している。支援が困難な場合は、再度、本人家族と話し合いながらサービス利用も含めた対応に努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 利用者の過去の経験を活かし、家事等できる事は行って頂き、一緒に作業する中で共に暮らしを支え合う関係を築いている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族の方が、以前から利用者の方が得意としている事を行えるようにして頂いている。職員は、家族の思いを継続し行えるようにしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 十分とはいえませんが、家族の方、友人の方から手紙を頂く事があれば返信のお手伝いをしたり電話の取り次ぎを行っている。  (外部評価) これまで行き来のあった友人の訪問ができるよう支援している。ドライブを兼ねて自宅や馴染みの場所に行ったり、今まで利用していた美容室に家族の協力を得て行くなど、馴染みの関係を継続できるよう支援している。利用者同士が顔見知りであったりして、入居してもこれまでの交流が継続できることを楽しみにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者の関係を把握し、部屋での閉じこもりや孤立等なく良好な関係が築けるよう声かけ、環境（席替え）等に努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 機会があれば、できるだけフォローをする体制であるが現在は継続的な関わりは出来ていない。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 事前調査家族からの意見も含め本人の希望や意向を開けるよう取り組みや把握に努めている。困難な場合は、家族、本人の意向に沿えるようケアカンファレンス等で話し合い努力している。	
			(外部評価) 利用者一人ひとりに向き合いながら、日々の会話から思いや意向を把握するように努めている。把握が困難な利用者には、表情や動作から思いや希望を汲み取り、把握するよう努めている。入浴時など利用者と職員が1対1となる場合に、利用者の思いを聞くことが多い。一人ひとりを大切に、思いや意向に沿ったサービス提供ができるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 本人家族からの情報をもとに、日々の生活の中で職員間で情報交換し合い把握に努めている。他施設からの情報等も利用している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 介護記録や業務日誌、申し送りノート、医療連携往診時等職員ひとりの観察ではなく他の情報も共有し把握に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 月一回のケアカンファレンズで本人・家族の意向・要望を参考に職員で話し合い介護計画を作成し、同意のもと実施している。また、同会議にて実施状況、問題等についても話し合っている。	
			(外部評価) 利用者や家族の意向を聞き、担当者を中心に話し合い、意見を反映して介護計画を作成している。作成した介護計画は家族に説明し同意を得ている。定期的にモニタリングを行い、介護計画がより良いものになるよう努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 心身状態の報告や介護記録に日々の状況を記入して、職員間で共有しながら介護の実践見直しに活かしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 話し合いのもと要望等があれば前向きに検討している。療養マッサージの受け入れやお墓参り等のサービスを行っている。また、入居者に変化等があれば神南診療所に連絡報告し指示を受けている。そして、週一回訪問での医療連携看護師による体調管理を行っている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 地域資源は把握しているが、身体的な事を考えると地域資源活用は、まだまだ不十分で発揮できていない。	



自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 施設の係りつけ医往診が月2回以上ある。本人家族の希 望する専門医受診。常に主治医、医療連携看護師に連 絡を取り適切な医療が受けれるようにしている。	
			(外部評価) 利用者や家族の同意を得て、ほとんどの利用者が協力 医をかかりつけ医としている。月2回協力医の往診で 利用者の健康管理をしており、急変時などにも対応が できる体制が整っている。専門医の受診は職員が受診 介助をしており、利用者が安心して継続受診ができる よう支援している。受診時には、利用者の状況を家族 に報告して、情報を共有している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 病院への状態報告や医療連携看護師に随時報告や相談 を行っている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 体調の変化や緊急時には、相談や情報交換にて病院関 係者との関係作りを行っている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 契約時に説明は行っている。また、重度化や終末期に ついては本人や家族の意思を尊重し、主治医・医療機 関看護士と話し合い、早い段階から事業所での可能な 対応について十分説明し方針を共有している。地域の 関係者は家族以外チームに入っていない。職員には、 カンファレンス等で意識統一を図っている。	
			(外部評価) 入所時に、重度化や終末期に事業所としてできること できないことを利用者や家族に説明し、意向を聞いて いる。利用者の状態に応じて、医師、家族、職員がそ の都度話し合い意向を確認している。利用者や家族の 思いを受け止めながら、納得のいく最期を迎えられ るよう支援している。急変時に備え、管理者は事業所に 待機して対応できるよう体制を整えている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 救命救急の講習を受けたり、シュミレーションを実際に行ったり、緊急時にすばやく対応できるように努めている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 避難訓練を年2回行い全職員が対応できるようにしている。近隣住民にも参加を呼び掛けている。	
			(外部評価) 年2回、避難訓練を消防署の協力を得て実施している。夜間を想定した火災訓練や震災訓練では、利用者全員が避難するのに時間がかかり過ぎており、災害発生時には現実的に利用者が安全に避難することが難しいことを認識している。日頃から避難場所や防災備品の使用方法を確認するなど職員全員で話し合い、防災意識を高めるよう努めている。震災に備えタンスが倒れないよう固定したり、備蓄品を用意したりするなど、利用者の安心、安全な生活を守るために災害対策に取り組んでいる。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 一人ひとりの人格を尊重している。状況に応じて個人に対応した言葉掛けをしている。	
			(外部評価) 利用者の尊厳を損なうことのないよう、不快感や羞恥心に配慮した声かけや大声を出さないよう注意した対応を心がけている。職員同士で気づいたことはその都度注意し合っている。職員は利用者一人ひとりの人格を尊重して支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 本人が希望しやすいようコミュニケーションを取りながら声かけや雰囲気作りをしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 職員に余裕がない時などは、職員側の都合が優先する場合もあるが、入居者の安全を考慮したものであり、一人ひとりのペースにあわせできるだけ希望に添うよう努めている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 出張美容を利用したのカット、毛染めやパーマ等は希望に添って行って頂いている。また、化粧される方もある。 入浴後の衣服は、なるべく本人に選んでもらっている。選べない人はその人らしく職員が考えている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) その人に合わせた食事の下ごしらえ、盛り付け、食器洗い等一人ひとりに出来る事や好みで協力して頂いている。  (外部評価) 献立は法人で一括して立て、職員が調理している。行事の時は、利用者のリクエストを聞き、好みのメニューを提供しており、利用者に喜ばれている。中庭で自然を感じながら食事やおやつを食べるなど、利用者がゆっくり楽しめる工夫をしている。利用者は食事の準備や片付けなど、できることを職員と一緒に手伝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事量や水分量のチェック、身体の状態に応じて不足部分を促したり、食事の形態を変える工夫をしている。 また、家族からのゼリー等の提供、トロミの使用等で工夫しながら確保している。 栄養・水分摂取が出来なくなった時には、早めに医療連携看護師、主治医へ連絡報告の支援をおこなっている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後行っている。声かけで促し必要な人には準備や介助を行っている。週一回義歯洗浄を行っている。口腔内の異変がある場合は、家族との相談で歯科受診、往診を検討し実施している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄パターンを把握し、トイレ誘導声かけにて排泄の失敗をなくす努力をしている。また、座位の取れる方は介助でトイレに座って頂いている。	
			(外部評価) 排泄チェック表を用いて、利用者一人ひとりのリズムやタイミングを把握するよう努めている。声かけやトイレ誘導は、利用者のプライドや周囲の利用者に配慮をしながら支援している。トイレは車いすでも十分に入れるよう広く、立ち上がり動作がしやすいよう適切な手すりを取り付けられ、安全を確保している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 食事量・水分量チェックにて一日の食事・水分量に気をつけている。また、排泄チェック表から個人のパターンを把握し便秘予防に取り組んでいる。 医療連携看護師・主治医と相談しながら服薬の検討もしている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 一人ひとりの希望やタイミングに合わせた入浴を支援している。	
			(外部評価) 利用者の希望に応じて、毎日入浴できるよう工夫している。入浴の苦手な利用者には無理強いしないよう声かけやタイミングを工夫し、心地よい入浴ができるよう支援している。利用者の状態に合わせて、2人体制で入浴介助をするなど、安全に入浴できるよう配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 本人の意思で休んで頂いている。一人で移動できない方体調不良の方は介助で休んで頂く。夜間眠れるよう昼間の生活を工夫している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬の処方箋を個々のファイルに綴じて用法用量を理解している。服薬支援と症状の変化確認には努めている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 皆で笑ったり喜んだりしてもらえようその人にあった家事やレクリエーションを提供し職員一緒に日々過ごせるようにしている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 月に一度外出ドライブ買い物等に行き日常では中庭のデッキの散歩野菜の手入れ希望と状況に応じ外出できるよう希望している。	
			(外部評価) 日常的に利用者は中庭のデッキに出て、外気浴を楽しんだり運動をしたりして、自然を肌で感じリラックスできるよう努めている。近くのコンビニに買い物に行ったり、畑でトマト、なす、ピーマンなどの野菜を作るなど、外出できるよう支援している。また、利用者の希望に応じて、家族の協力を得て美容室に行くなど外出することもでき、家族とふれあう外出支援を心がけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 基本的には事業所が管理している。しかし、家族の了解にて自分で管理されている方もおられる。買い物行事では、支払いをできるだけ入居者にして頂けるよう支援している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 本人の希望があれば、電話をかけたり手紙のやり取りができるようにしている。また、家族から電話をして頂き、電話に出て頂いている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 利用者がゆったり清潔に過ごせるよう環境整備を行っている。花や掲示物にも工夫し目で楽しめるようにしている。	
			(外部評価) 共用空間には窓から自然な光が差し込み、ソファや畳スペースで利用者は自由にくつろぐことができる。リビングや廊下の空調など環境整備が行き届いており、利用者が居心地よく安全に安心して過ごすことができる空間づくりをしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) フロアでの席順や個室での利用者同士の行き来、一人ひとりの居場所作りが出来ている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 使い慣れた寝具・テレビ等持ち込みが出来ている。馴染みのある置物やお誕生日カード・写真等で安心して過ごして頂けるように工夫している。	
			(外部評価) 居室はベッド、タンス、洗面台が備え付けられている。居室には家族の写真を飾ったり、使い慣れた物を持ち込むことができ、利用者が居心地よく過ごせるよう配慮している。居室の窓からは周りの山々を見渡すことができ、四季を感じながら落ち着いた雰囲気となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) ベッドの位置や家具の位置を工夫し安全に自立した生活が送れている。	